



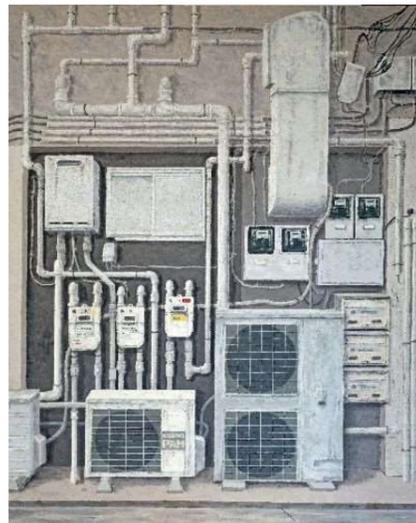
◆ 経 歴

- 1968 年 4 月 大成建設(株)入社 機械部配属
本四連絡橋(南北備讃瀬戸大橋&・明石海峡大橋)
下部工作業所勤務(機械担当)
雲仙普賢岳砂防ダム工事用無線操縦重機の開発
ケーソン工法の自動化の開発に従事
- 1993 年 3 月 技術士(建設部門;施工計画及び施工設備)合格
- 1995 年 4 月 武蔵工大機械工学科非常勤講師就任(1998 年 9 月退任)
- 1999 年 3 月 大成建設(株)役職定年で退職
- 2006 年 10 月 趣味として油絵を始める
- 2010 年 10 月 さいたま市展「水門」初出展(初入選)
- 2015 年 5 月 第 29 回日洋展「空調・給湯設備」出展(奨励賞受賞)
- 2015 年 10 月 さいたま市展「配管」出展(議長賞受賞)
- 2016 年 5 月 第 66 回埼玉県展「配管 2016SP」初出展(初受賞)
- 2016 年 5 月 第 30 回記念日洋展「配管 2016N」出展(優秀賞受賞)
「日洋巡回展」に選抜され、福岡、岡山、大阪、名古屋、仙台の会場にて展示
以後毎年出展し、現在に至る
- 2024 年 11 月 地元(新潟市西浦区)にて個展予定
- 現在 埼玉県美術家協会・さいたま市美術家協会(無鑑査)・日洋会各会員

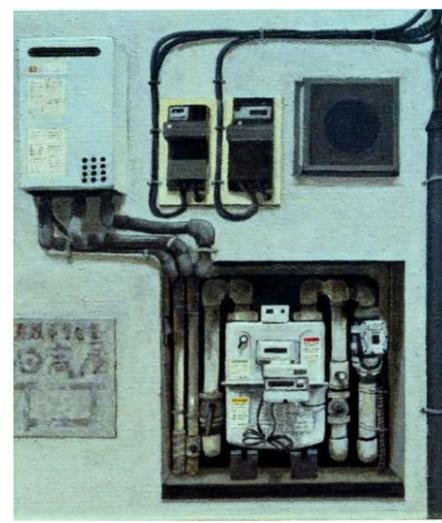
◆ 本人コメント

定年後、書道を趣味として過ごす事を考えていたが、技術士試験勉強で腱鞘炎になって右手が使えなくなった。
生来、左利きだったので、技術士答案も左手で対応・合格し、定年後の趣味も絵画をする事にした。
公募展へ出品するに当たり、モチーフを何にするかが問題となり、数年間、水門・機械等を描いていたが、もう一つ。
モチーフを求め街を歩き回って配管を見つけ、これを絵にしたら絵の先生の賛同を得た。
そこで、配管をモチーフにして、想像以上に数々の受賞・評価を得た。今年で、十二年目になる。
増設・減設の様子が商売繁盛の推移を物語り機器の「静」の裏側にその恩恵に依って生活する人々の「動」がある。
そんな脇役に光を当てたいと絵筆を動かしている。老骨に鞭打ち、灰になるまで絵筆を握りたいものだ。

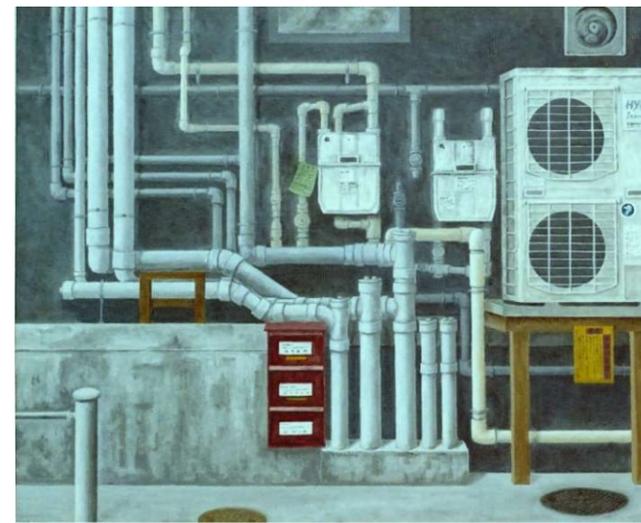
◆ 作 品



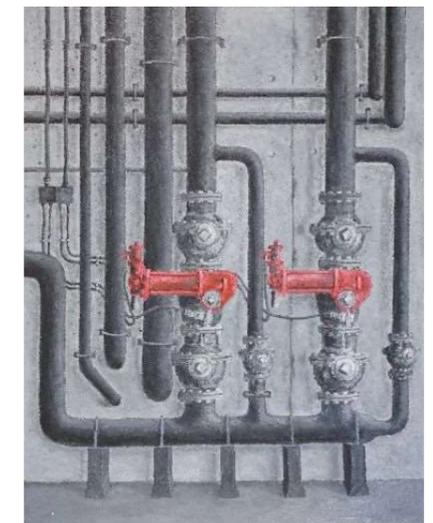
配管 2016N 油彩 100 号
第 30 回日洋展；優秀賞受賞



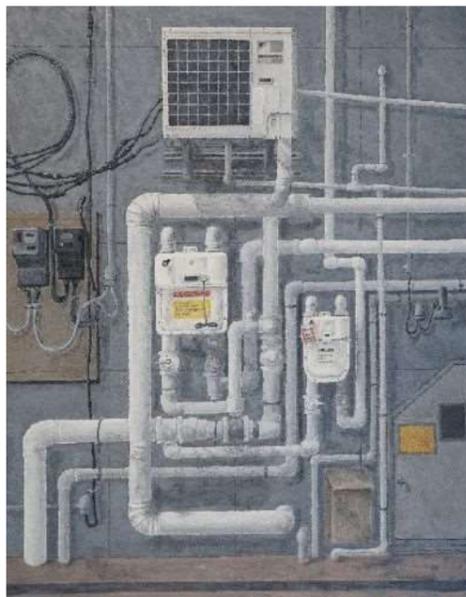
配管 2018SC 油彩 20 号
第 17 回さいたま市展



配管 2018N 油彩 100 号
第 32 回日洋展(新国立美術館)



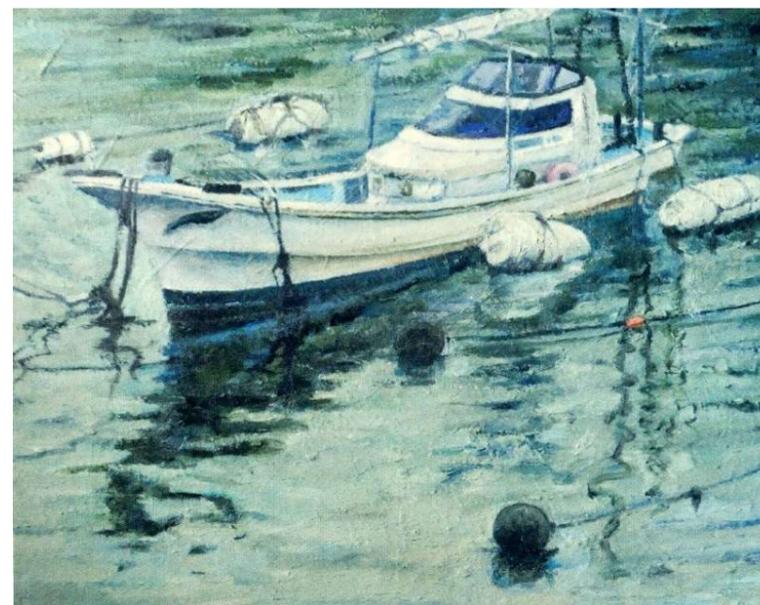
O 駅の構内配管 油彩 50 号
第 12 回さいたま市展
奨励賞受賞 (2013 年作)



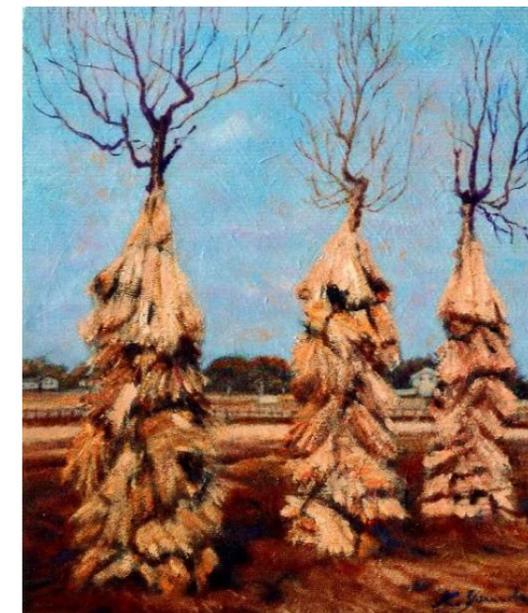
配管 油彩 50号
第14回さいたま市展
議長賞受賞 (2015年作)



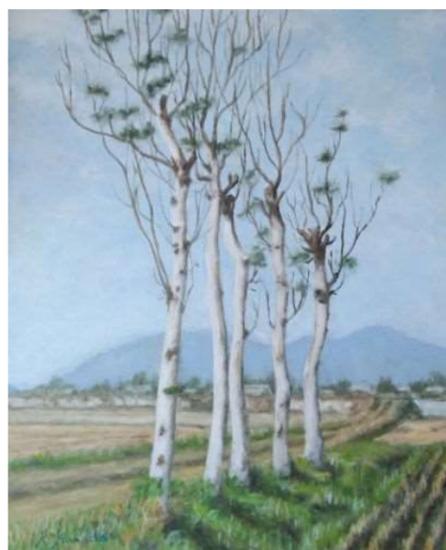
配管 2016SP 油彩 50号
第66回埼玉県展(2016年作)
さいたま市議会議長賞受賞



漁船(尾道港) 油彩 8号
2018年10月作



藁モチ 油彩 10号
2022年11月作



故郷を想う 油彩 15号
2024年5月作 個展



春を待つ(新潟東萱場)
油彩 8号 2020年5月作



新キャベツ 油彩 10号
2022年1月作



枇杷 油彩 8号
2022年4月作